

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171000417), 法人名 (社会福祉法人すばる), 事業所名 (グループホームひだまり), 所在地 (江別市大麻北町608番地の3), 自己評価作成日 (令和6年1月15日), 評価結果市町村受理日 (令和6年3月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・建物は木造で古くなってきていますが、それが温かみのある、自宅での生活を感じられるような環境になっています。
・入居者全体が高齢化してきているため、体を使った活動的な行事企画は少ないですが、個々人の状態を考慮した穏やかな生活を送ることができています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0171000417-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年2月14日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に開設の事業所は最寄りの駅から車で8分程で、閑静な住宅地の丘陵地帯に位置し、札幌や石狩平野が眺望できる環境にある。敷地内には複数の介護施設と協力医療機関が隣接しており、非常時等で連携が得られている。ドライブで近くの農場を訪れ馬や山羊を間近に見たり、ソフトクリームを味わい、また、チョコレート専門店で購入物をし、敷地内のバラやアジサイを觀賞するなど、気分転換に繋げている。室内レクリエーションの充実を図り、敬老会ではヨーヨー釣りや金魚釣りでお祭り気分を演出し、クリスマス会ではサンタの扮装をした職員からプレゼントが贈られるなど、季節感を大事にしている。運営推進会議では、複数の地域関係者や行政関係者、家族、利用者がメンバーとなり、運営状況を開示する中で相互の理解に繋げており、今後も会議を介して地域や家族等のさらなる交流拡大を図っている事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をフロアに張り出して全員が理念を共有できていると考えています。	利用者に笑顔あふれる生活を送って頂きたいと、「一生一笑」を理念としている。コロナ禍もあり少々難しいときもあったが、職員の支援の下、利用者は穏やかに過ごしている。職員は、入社時に理念の持つ意義を学んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前回と同じく交流をしたいと思う中、アプローチの仕方が分からないでいます。	地域とは高校生が体験学習で来訪した折に、利用者が笑顔になっている光景が見られている。住民からの介護相談等には親身に対応している。今後に向け、地域とのさらなる交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅支援事業所に入居状況や相談をしたり、直接相談に対しての対応や資料請求、施設見学は希望があったとき都度実施しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度からようやく対面での運営推進会議を行うことができおり、居宅支援事業所から他施設の情報や当法人の現状等情報共有をしています。	会議には数名の地域関係者や地域包括支援センター職員、家族が参集しており、管理者は、利用者状況や行事・活動内容、事故やヒヤリハット等を報告している。推進委員の意見や情報等の聞き取りに努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月月初に入居者状況を報告しています。	行政との対応は管理者が担い、円滑な運営や利用者の安定した生活に生かしている。疑問点は電話でやり取りを行い、事故報告書は担当窓口を持参し、介護認定調査員やケースワーカーの訪問があったときは情報交換が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で虐待及び抑制防止委員会を作り、年4回以上の研修(オンライン研修)を行い日々のケアに努めている。 また、新規採用職員には身体拘束に関する研修を行っています。	法人全体で身体拘束や虐待をしないケアを基軸としている。指針をベースに、毎月適正化委員会と研修会を同時に開催している。馴れと親しみの違いや言葉のトーン、肌の変化などに対して、上司の助言や職員間でも注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待及び抑制防止委員会を作り、年4回以上の研修(オンライン研修)を行い日々のケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修では動画研修を行っていますが、外部研修を受講する予定でしたが当日予定が入ってしまい研修参加ができませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居者の契約時には契約書の説明を行い了承を得て取り交わしています。契約変更については、案内を出し説明をしたうえで同意書を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があった場合、すぐに実行できることは職員と話し合い実施していく。また、要検討の場合は、法人役員会で検討する。	家族には、毎月「ひだまり通信」をユニットごとに作成して送っている。行事での個別の写真やその月の行事予定などが載っており、家族から好評を得ている。利用者や家族から運営に関する意見は殆ど無いが、出されたときは適切に対応する態勢にある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の会議で運営に関する報告を行っています。職員の意見や提案は業務の中で打ち合わせを行い、意見をまとめて法人本部役員に報告・検討し対応しています。	職員は、行事などの役割分担や居室担当者として力を発揮し、1日に1回でも笑顔になって欲しいと、利用者の心身に寄り添っている。業務上や会議においても活発な意見交換が行われ、業務の改善やケアの向上に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の条件に合わせてシフト作成や業務内容の見直しをかけて無理のない業務を遂行できるよう調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内ではオンライン研修のほか集合研修を実施して取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作っている「あおいの会」で企画している「グループホーム交流会」に参加していましたが、コロナ後交流会も参加できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人や家族、現在使っているサービス情報を受け、職員が本人家族の思いを共有できるようにし、早く施設に馴染めるように関係を作るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族からの情報や本人と面談を実施し思いをくみ取りニーズに応えられるよう情報を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、関係機関等から情報を収集し、サービス内容を事前に検討してから受け入れるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯物たたみ、モップかけなどの作業をできる人には手伝ってもらうようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事は感染対策上難しいため、主に面会や電話にて本人の情報共有をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外で以前近所に住んでいた人とか知人という方が面会に来られても拒むことはしていません。	面会は、居室で15分程度としている。職員は、電話の取り次ぎを行い、また、写真やアルバムと一緒に見て、昔を懐かしむ利用者の思いを共感している。訪問診療や看護師、外来受診での医療従事者とは馴染みの関係を構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の状態を把握し、食事席の配置やレク参加について良好な関係が作れるように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方のご家族から相談、連絡があっても丁寧な対応を心がけています。また退院見込みがなく退所になった場合は、その後の経過を確認するため連絡を取るようになっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中から思いを汲み取り、物言えぬ利用者には家族から情報を収集したり今までしてきた生活をできる限り近づける支援できるよう心がけています。	利用者の思いの把握に努めているが、視点を変えて気付くこともあり職員間で検討が行われている。利用者との会話や表情等から満足感が得られるよう、レクの充実やケアプランに挙げ要望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃のコミュニケーションの中から思いを汲み取り、物言えぬ利用者には家族から情報を収集したり今までしてきた生活をできる限り近づける支援をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での記録や特筆することがあれば記録を行い現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の現状を把握し、課題を検討し計画作成をしています。	ケアプランの作成に当たり、前もって利用者や家族の意向を聞き出している。現支援目標の実践状況や訪問看護師の意見を参考に職員間で課題を明確にしている。目標を継続するか新たに策定するかを職員間で協議している。	ケアプランの見直し時に生かせる支援目標の実践が、簡潔に確認できる記録の整備に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記録し、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で、外のサービスを利用できないため法人内のサービスが主になっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の地域資源を今年度から活用しようとしたが、感染拡大している時期もあり活用することができませんでした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医による訪問診療が月4回、訪問看護が週1回、精神科医師の訪問診療が2週1回、歯科受診を随時行っています。	医療連携体制である協力医による定期的な訪問診療や、訪問看護師による健康管理の整備に加え、看取り要望の受け入れ等を入居時に説明をしている。他科や入居前のかかりつけ医への受診は、家族対応を基本としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所時に相談したり、休日・夜間は電話での相談・指示の対応をしてくれています。また平日の日中は協力医療機関の看護師が相談に対応してくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはすぐにMSWと関わり、入院中や退院に向けての連絡相談体制を作るようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約説明の中で、重度化・看取りの説明を行っています。状況によって主治医とともに今後の対応について話し合う場を設けるようにしています。	入居時に終末期の対応を指針で説明をし、同意と看取りへの意向を確認している。看取り時は職員が不安なく最終支援に入れるよう看取りの研修を行っている。段階的に主治医や家族と情報を共有して、利用者の気持ちに沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてはマニュアル等で周知しているが、定期的な訓練・確認は実施できていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2階の消防訓練を実施しており、職員も避難手順を理解しています。また防災委員会で雪害を想定し、電気が使えない時の対策も現在話し合っています。	年2回の避難訓練を計画して、日中に火災発生を想定した訓練を隣接の介護施設と合同で行っている。防火扉や防火シャッター、自動火災報知機、避難階段等を設置して非常時に備えている。避難場所までの実践的訓練はこれからとしている。	今後、夜間帯での火災発生を想定した訓練を計画しているので、その実行と、加えて地震など事業所において考えられる自然災害の取り組みや、入浴時などあらゆるケア場面での対応に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックにならないように日頃から気をつけて接しています。	正しい接遇のあり方は、虐待及び抑制防止委員会や研修会等で学び実践に努めている。利用者に関する伝言や個人記録の扱いも適切に行われている。管理者は、職員の言動が気になるときは注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さまざまな場面で意向を確認したり、選択の判断を問うような対応をするようにしています。本人の思いや希望を伝えることが難しい方についてはご家族様から話を聞き対応しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間などは、できるだけその方の状況に合わせて柔軟に対応するように話し合いを持っているが、職員の都合に合わせて対応になることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容ではその人に合わせたヘアスタイルをお願いしている。服装はその人の好みに寄せて用意して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ヨシケイキッチンで食事を発注しているため味付けに関してはほとんどこちらで調整できませんが、利用者様の希望にできるだけ沿うように調味料を調整したり対応をしています。	業者から調理したものが届いているが、その内1品は職員が味付けをしている。時には注文を止めて、うどんやお好み焼きを作り、食事会なども職員が手作りの祝い膳を用意するなど目先を変えている。移動販売車でのスイーツを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量ともに毎日記録しており、健康状態に配慮して支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて、毎食後に口腔ケアをおこなっている。夕食後は義歯洗浄剤を使用し清潔を保持するように対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の能力に応じて、使用パットを選定しています。できる限り利用者様がトイレでの排泄が継続できるよう支援をしています。	ベッド上での支援もあるが、トイレでの排泄を基本としている。自力排泄者への見守り、2人介助でトイレでの排泄、ポータブルトイレの使用、適切な衛生用品の活用等で失敗の軽減を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、食事量・水分量を考慮しながら排便パターンを把握したり、機能訓練や体操など行い腸活に取り組んでいます。その他に、下剤調整を行い排便コントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ができるよう、支援していますが、現状個人の希望に合わせて行うことはできていない。	入浴は、週2回を目安に出来ない部分を支援している。自力入浴者の見守り、2人介助、足湯をしながらのシャワー浴では湯気で浴室の温度を上げ、脱衣所は電気ストーブで暖かくしてヒートショックを防いでいる。入浴は、利用者の歌や本音が聞ける機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食や昼食後に横になってもらったり、TVを見て就寝時間が遅くなる場合もあったり、遅く寝て朝起きられず朝食時間が合わなくなったりすることを容認しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員には入居者の処方薬の説明書をすぐ確認できるように場所を決めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせて手伝ってもらうようにしています。楽しみごとについてはご本人が希望すれば対応できるようにしています。喫煙はH29年4月から施設内禁煙としています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しずつ行事でも外出する機会を設けています。近場の散歩は希望があれば対応できるように努めています。	外出は、介護度の高さもあり敷地内の散歩程度だが、ドライブで農場を訪れソフトクリームを食べたり、チョコレート菓子店に買い物に行き、敷地内に咲いているバラやアジサイを觀賞して程良い刺激に繋げている。今後に向けた外出行事を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染症対策のため利用者様からお金を預かり買い物を代行しています。外出行事ではご本人が好きなものにお金を使えるように対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応は希望のある時は都度対応しています。手紙やハガキは利用者様にお金を出して頂くこちらで準備をしています。その後ポストへ投函しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ後から消毒できないものなど、共用のスペースには掲示物等は貼っておりませんが、穏やかに過ごしていただけるように努めています。	1階のリビングに面して和室があり、また、廊下の両サイドにサブリビングを設えている。利用者は居室を含め、気に入った場所でコーヒーを飲みながらお喋りや日光浴、テレビ觀賞などで寛いでいる。職員は、利用者が快適に過ごせる環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席に配慮して居場所づくりをしています。また、サイドリビングもあるので利用しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が使っていた物や思い出のあるものを使用したり過ごしやすい環境になるよう努めています。	居室は、ユニットごとに5か所の和室に押し入れ、4か所の洋室にクローゼットがあり、収納に役立っている。テレビや仏壇、写真立て、編み物セット等を持ち込んでいる。感染症防止のため、壁面には殆ど飾り物がない状態にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札をつけたり、ご自身でトイレに行かれる方はわかりやすいよう目印をつけわかりやすいようにしています。		